

AC3 イルカを知ろう

実施のしかた (PDF)

1. 回答例の描かれたフリップボードを持った3人のスタッフが別れて立ちます。

*スタッフが少ない場合は、フリップボードを束ねず、回答例を指導者が伝えた後、参加者自身にボードを持ってもらいます。

2. 指導者が最初の質問1「イルカの仲間は何？」を出します。

参加者は、正解だと思うボードを持っているスタッフ（または参加者代表）のところに集まります。

3. それぞれの回答を選んだ参加者に、その理由をインタビューします。

間違った説明をしていますが、ここでは参加者の意見は否定しないようにします。

4. 指導者が正解を発表。解説を行います。正解以外の回答も視点を変えれば間違っていないことを伝え、それぞれの理由を説明します。

・正解③ カバ：イルカの祖先は陸に暮らしていたほ乳類です。海洋ほ乳類は、進化の過程で海から陸に上がった生命のうち、再び生活の場を海に求めたグループです。DNA解析によりイルカ・クジラ（鯨類）にいちばん近い種はカバだということが判明しています。同じ海洋ほ乳類のアザラシ（鰭脚類）やジュゴン（海牛類）との系統的な類縁関係はありません。

*参考資料：「クジラ・イルカが出現するまで」（偕成社『クジラとイルカ 海も地球も大研究』より）

・回答① アザラシ：イルカと同じ海洋ほ乳類です。同じ種であることによる類似点と進化の過程による相違点を伝え、他の海洋生物への興味を誘います。

・回答② サメ：サメは魚類ですが、ヒレの形など類似点がたくさんあります。種が違って環境や餌が似ていると形が似ることがあること（収斂進化）を説明します。

*参考資料：ファクトシート「イルカ・クジラⅣ」

5. 同じ要領で質問2「イルカはどうやって眠るのか」を行います。

正解① 泳ぎながら眠る：ほ乳類であるイルカは常に数分おきに息をしなければならぬため、左右の脳を交互に休めて、ゆっくりと泳ぎながら眠る（脳を休める）といわれています。

回答② 水面に浮いて眠る：野生下ではサメ等の外敵に襲われる可能性が高いため、一か所に留まって浮いて眠ることはないといわれています。ただし、外敵に襲われる可能性のない水族館では水面に浮いて眠ったり、回答③のように水槽の下に沈んで休むこともあります。

回答③ 岩の影に隠れて眠る：水族館のイルカの他、は虫類ですがイルカと同じように肺呼吸を行うため定期的に水面にあがる必要のあるウミガメは、岩の間に隠れて休むことが知られています。「体のつくりの違い」や「1回の呼吸で海中にいられる時間の違い」などを調べてみるように参加者に伝え、他生物への興味や調べ学習につながられます。

6. 同じ要領で質問2「イルカはどうやって暮らしているの？」を行います。

*③の回答がありません。この質問は①も②も正解です。

正解② 家族で一緒に暮らしている：母親を中心とした家族で暮らす鯨類の代表的なものに、ミナミハンドウイルカ、マッコウクジラ、シャチがいます。

正解① ひとりで気ままに旅をしている：鯨類の生活パターンは種によって大きく異なります。上記のミナミハンドウイルカやマッコウクジラなども、オスは徐々に母親の群れから離れ、若いオスの群れで行動をするようになり、成熟したオスは単独で行動し行動範囲も広がるといわれています。

7. 関連動画：イルカの水中映像（休息・移動・授乳・遊びなど）を見せながら補足説明を行います。